

1. 分流部の現状について

- (1) 自然環境
- (2) 歴史的資源
- (3) 維持管理の現況
- (4) 整備と利活用の現状
- (5) 関連計画

(1) 自然環境

生物の生息状況

- ・ 注目種として、オニバス、タコノアシ、ヒシモドキ、ミズアオイ、コガマ、ウキヤガラ等の植物が確認されている。
- ・ 動物では、ほ乳類、鳥類をはじめ多くの種の生息が確認されている。(主な確認種：右表)
- ・ 県下有数のトンボの生息地として指摘されている。

水辺(低水路部)の植生概況

- ・ ヒシ、ガマ、ツルヨシや川辺1年生草本群落などが分布している。



一の荒手周辺の水辺



中島竹田橋より上流の水辺

< 河川水辺の国勢調査の結果概要 >

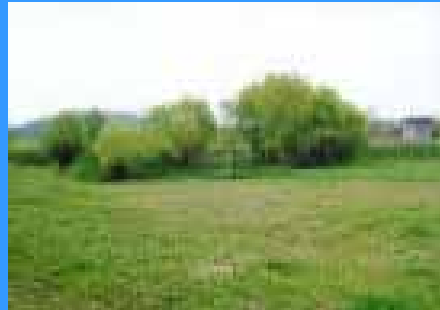
分類	生息が報告されている主な種
植物注目種	オニバス、タコノアシ、ヒシモドキ、ミズアオイ、コガマ、ウキヤガラ等 (低水路部に分布)
ほ乳類	キツネ、コウベモグラ、カヤネズミ、ヌートリア、イタチ等 (キツネは毎年繁殖)
鳥類	ヒバリ、ウグイス、オオヨシキリ等 (草地の種) ヒクイナ、カイツブリ等(水辺の種)
両生・は虫類	ウシガエル、トノサマガエル、ヌマガエル、クサガメ、シマヘビ、カナヘビ等
昆虫類	セスジイトトンボ、コフキトンボなどのトンボ類、チョウ類、バッタ類等 (トンボ類は県下有数の生息地)
魚介類	カワニナ、チリメンカワニナ、コウライモロコ、カワヒガイ、メダカ等

高水敷の植生概況

- ・ オギ、セイタカアワダチソウ、カゼクサ、ヒメシバ、ススキ等による草地、採草地が広がる。（一部、グラウンド・人工裸地）
- ・ 中島竹田橋より上流側に窪地があり、ヤナギの高木が見られる。



一の荒手周辺














中島竹田橋より上流の窪地

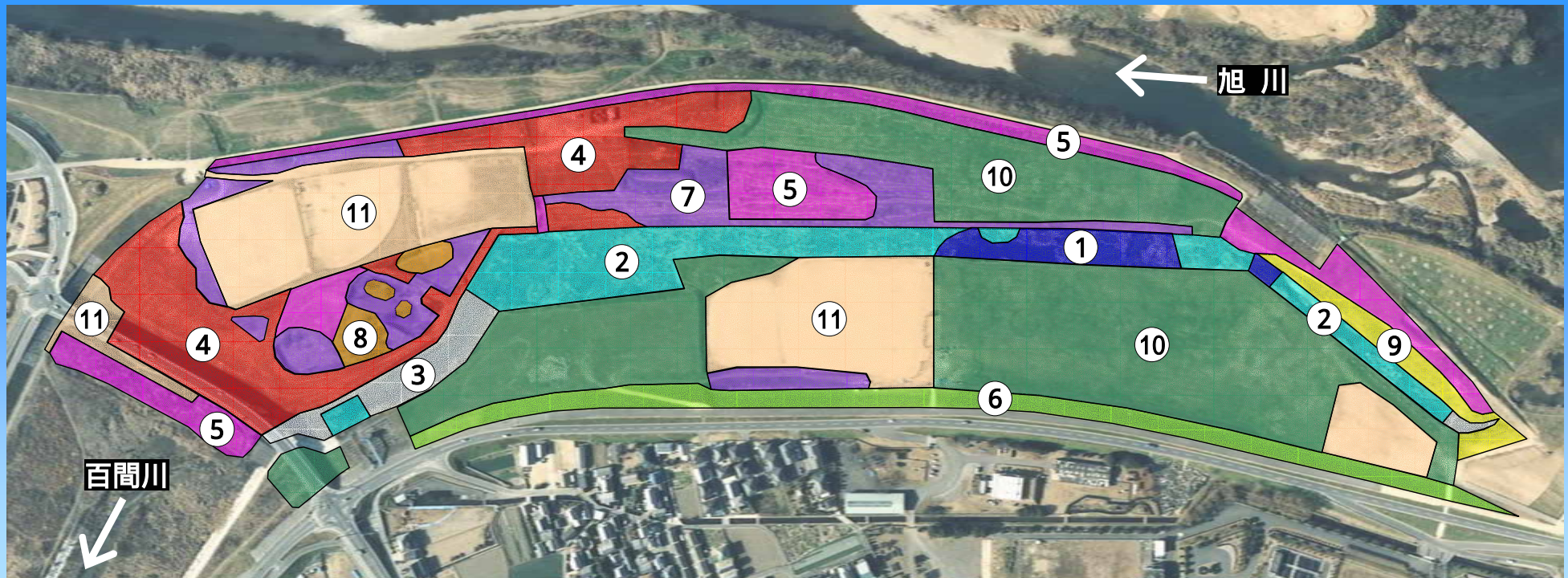


二の荒手周辺

凡例：植生概要図

-  沈水植物・浮葉植物群落
-  河辺1年生草本群落
-  開放水面
-  1年生草本群落
-  多年生草本群落
(広葉草原: セイタカアワダチソウ)
-  多年生草本群落
(広葉草原: ヨモギ)
-  多年生草本群落
(イネ科草原)
-  ヤナギ高木林
-  人工草地
-  採草地
-  グラウンド・人工裸地

植生概要図（現地調査の結果概要：平成15・16年）



春～夏期の様子

【一の荒手周辺の様子】



【一の荒手から下流の眺め】



秋期の様子

【一の荒手周辺の様子】



【背割堤の様子】



冬期の様子

【一の荒手周辺の様子】



【中島竹田橋から上流の眺め】



(2) 歴史的資源

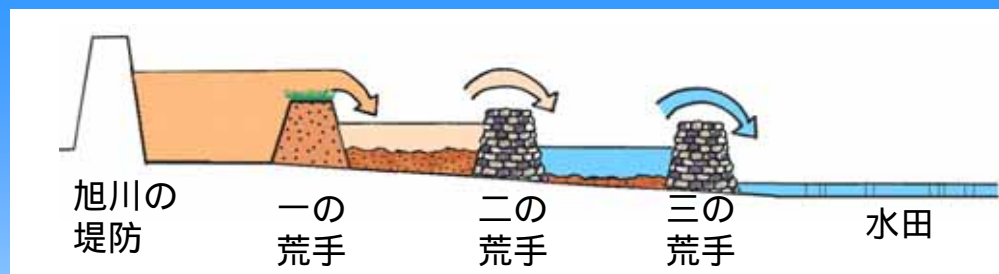
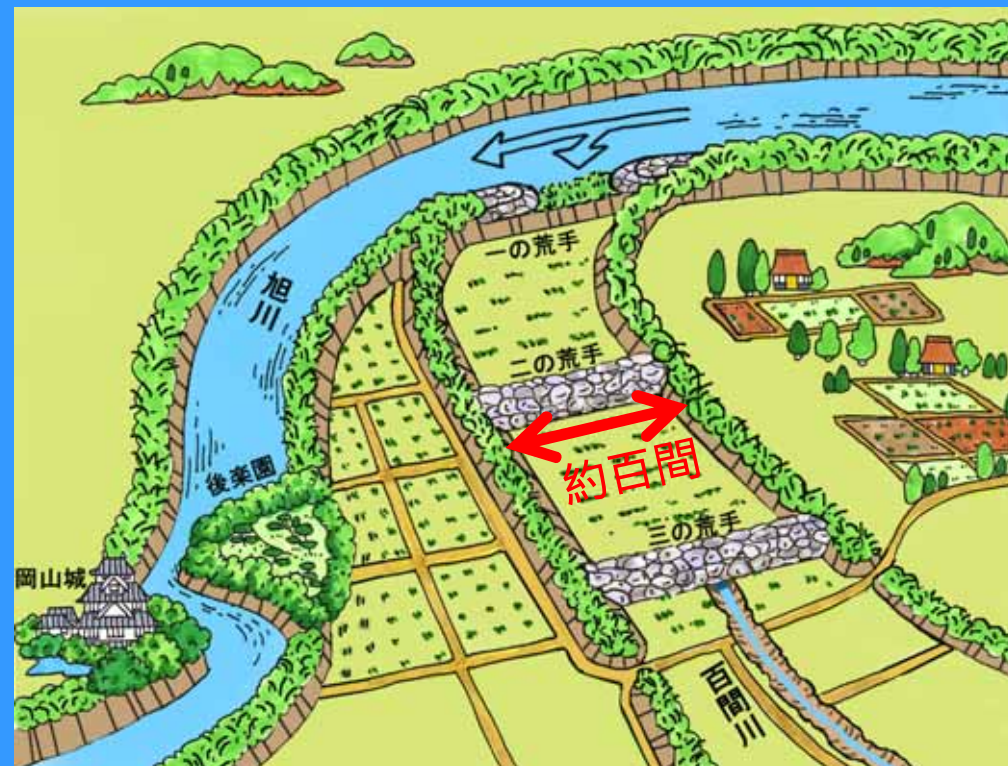
一の荒手

- ・ 築造当時は土堤であったと考えられるが、現在はコンクリートで補強されている。
- ・ 荒手の上下流には、築造当時の姿を今に伝える「亀の甲」が現存している。

二の荒手

- ・ 平成10年の洪水等にて、一部破損しているが、概ね築造当時の姿で現存している。
(中島竹田橋の整備に際し、発掘調査を実施)

江戸時代に考案された三段方式の荒手の仕組み



* 二の荒手の長さが約百間（約180m）あることから、「百間川」と呼ばれた。

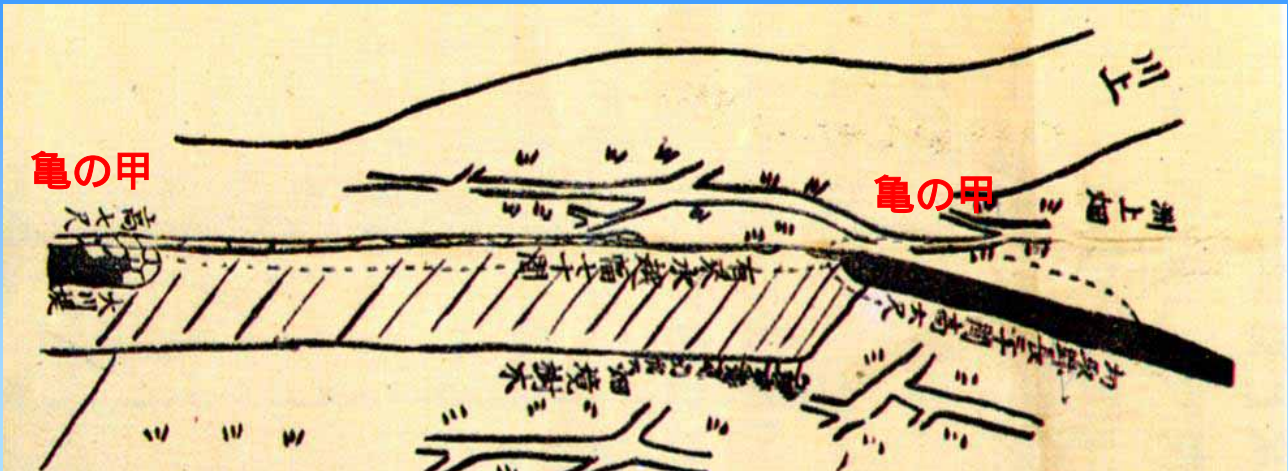
* 三の荒手は、明治25年の洪水で破壊された。

一の荒手

全景



見取絵図：文化11年(1814)



上流側の「亀の甲」



下流側の「亀の甲」

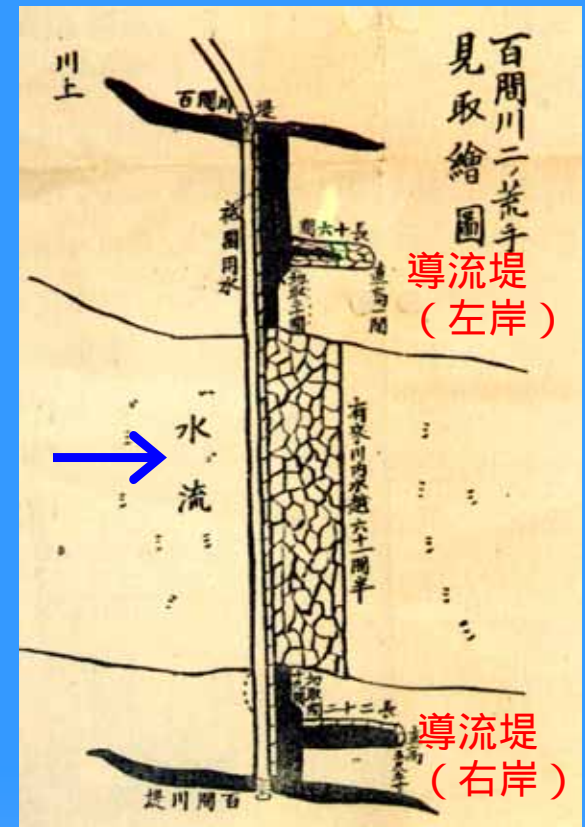


二の荒手

全 景（中島竹田橋整備前の様子）



見取絵図：文化11年（1814）



右岸導流堤の様子



全景（現在の様子）



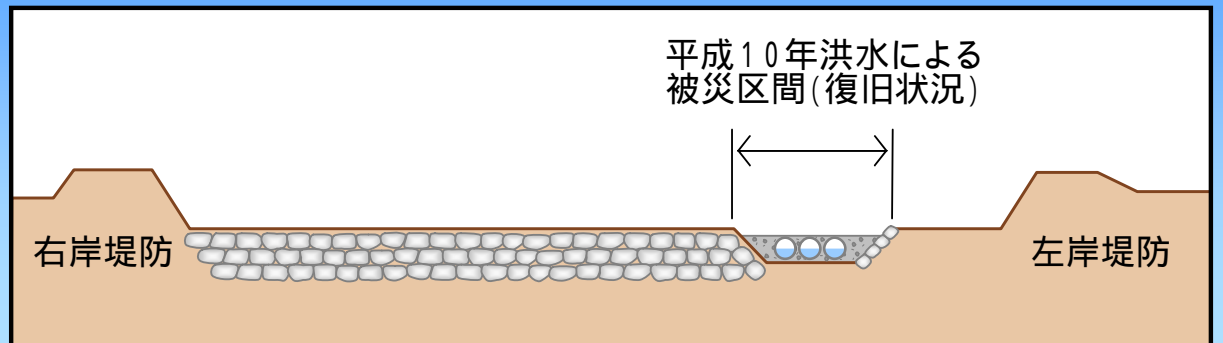
全景（発掘調査時の様子：平成6月3日）



平成10年洪水による被害の様子



下流側からの側面イメージ（現在）



中島竹田橋整備前の様子



発掘調査時の様子（平成6年3月）



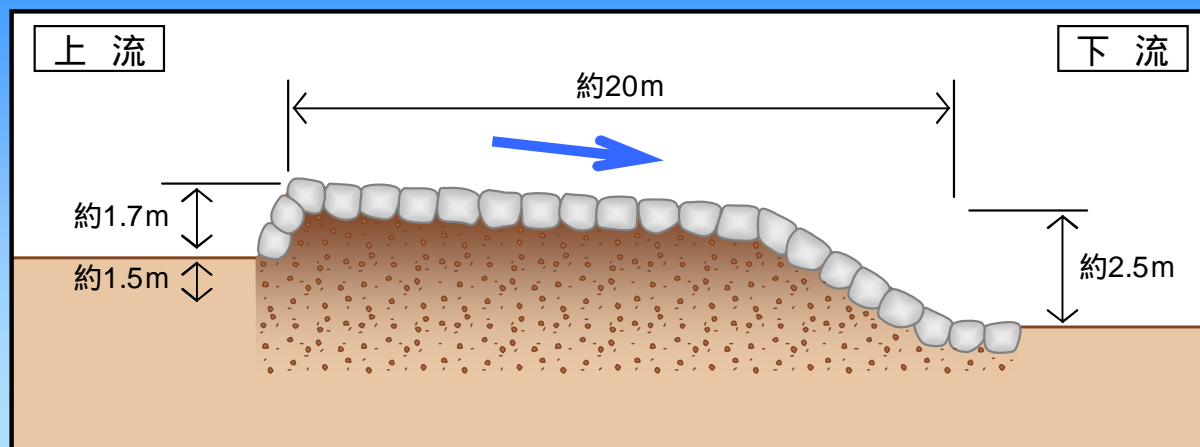
現在の様子（右岸からの眺め）



現在の様子（左岸からの眺め）



断面イメージ



(3) 維持管理の現状

除草の実施状況（河川管理者）

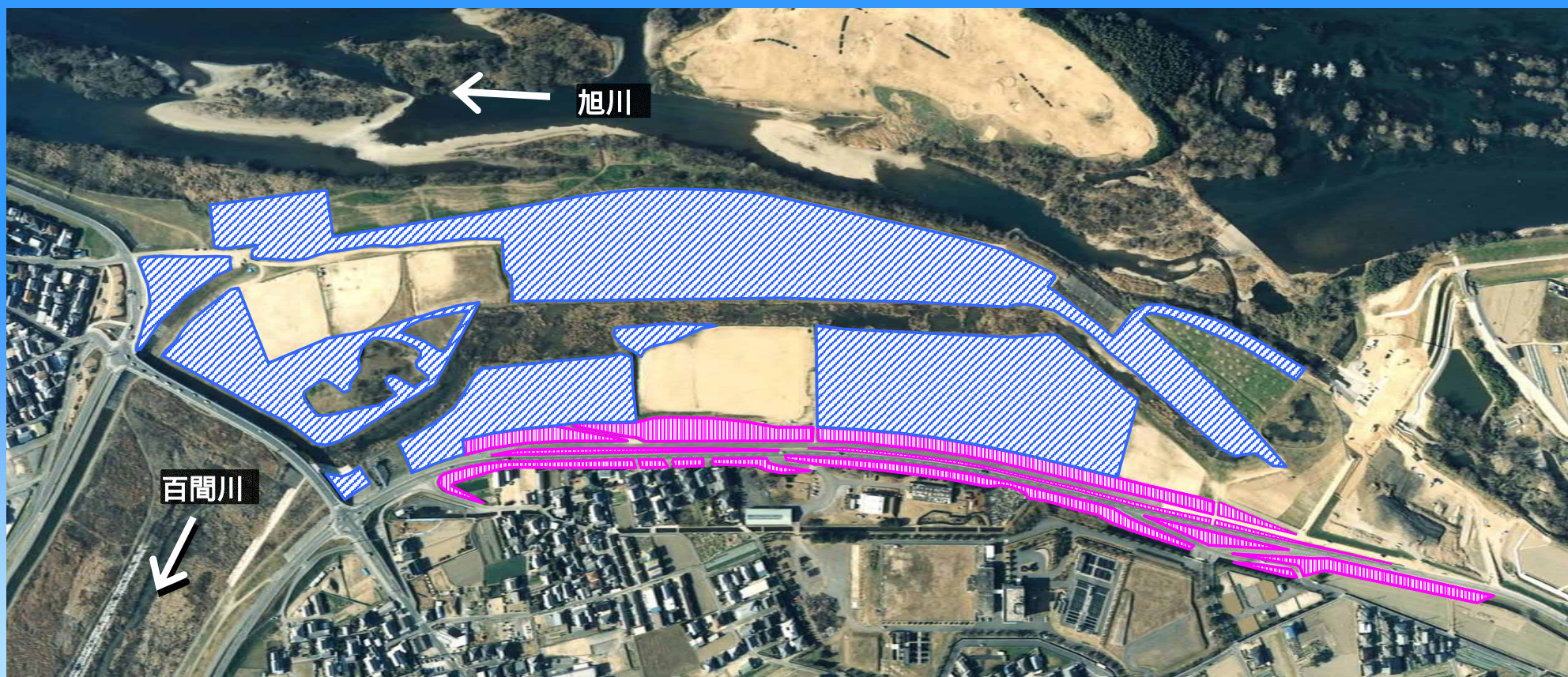
 高水敷部の除草作業：1回/年（約14ha）

 堤防部の除草作業：2回/年（約2ha）

* 除草作業費：約800万円/年

除草の範囲

除草後の様子



(4) 整備と利活用の現状

グラウンド・多目的広場（占用の現状）

A 岡山市占用多目的広場
（許可：H18.3.31まで）



B 東岡山リトルリーググラウンド
（一時使用届）



C 自由使用



百間川の浄化用水とホタル池・桜の広場

百間川の水質改善対策として、平成7年度より旭川から毎秒1m³の浄化用水を百間川に導入している。



また、浄化用水の導水部一帯を親水公園・ホタル池として整備している。



子どもの水辺「一の荒手」

子どもの水辺「一の荒手」は、旭川の河原と分流部を一体的に指定したもので、子どもたちの水辺での活動を推進している。



自然観察の様子(一の荒手周辺)



水遊びの様子(ホタル池下流)



水遊びの様子(旭川)

一の荒手 リバーマップ

生息する代表的な生物			
植物	魚類	鳥類	昆虫
セイヨウアザミ	ナガサギ	モズ	ゲンジブトンボ
オオバコ	オコシロシ	アユ	ゲンジブトンボ
ツルギ	ヒメシロシ	コノサメ	ゲンジブトンボ
オオバコ	ヒメシロシ	スズメ	ゲンジブトンボ
セイヨウアザミ	ヒメシロシ	コノサメ	ゲンジブトンボ
オオバコ	ヒメシロシ	スズメ	ゲンジブトンボ
セイヨウアザミ	ヒメシロシ	コノサメ	ゲンジブトンボ
オオバコ	ヒメシロシ	スズメ	ゲンジブトンボ

小動物

コウモリ(哺乳類) タヌキ(哺乳類)
 スズメ(鳥類) イタチ(哺乳類)
 ツチノコ(哺乳類) ヒメシロシ(哺乳類)
 カササギ(哺乳類) アライグマ(哺乳類)
 シマリス(哺乳類) ハクモクセン(哺乳類)
 カヤネズミ(哺乳類) コノサメ(哺乳類)
 シマリス(哺乳類) ヒメシロシ(哺乳類)

この地域では水辺散策やホタル観賞をはじめ、水辺に親しむ行事がたくさん行われています。

旭川

中原川

ホタルが見られます

ホタルが見られます

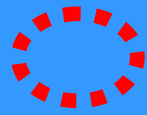
ホタル池

小さな子どもでも安全にあそべます。

幼児でも安心してあそべる場所です。

このマップには、単独が起きやすい危険な場所を示していますが、実際の地形と多少異なるところもありますので、川を利用される際には十分注意してください。

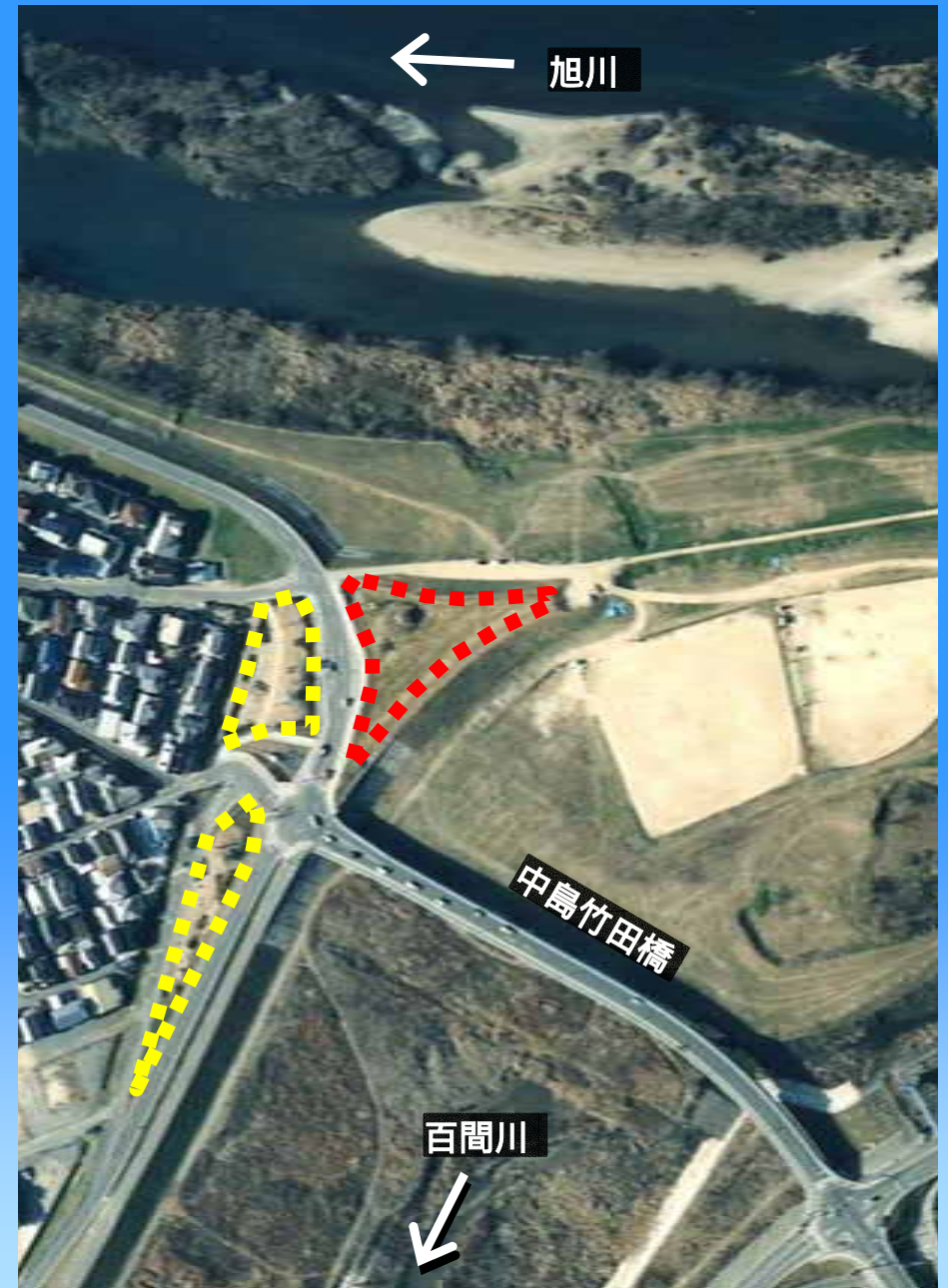
中島竹田橋（右岸）橋詰め周辺広場



導流堤の下流側端部の堤防敷に、あづまや、総合案内板等を設けている。(河川管理者)



また、隣接してポケットパークが整備されている。(岡山市占有)



(5) 関連計画

旭川・百間川ランニングコース

旭川と百間川の高水敷を利用したランニングコースを岡山県・岡山市にて整備中。



—— 整備済区間の様子
(旭川:岡山市)



..... 未整備区間の様子
(旭川:岡山市)



—— 整備済区間の様子
(百間川:岡山県)



..... 未整備区間の様子
(百間川:岡山県)



中原川締切堤防と河川防災ステーション

中原川締切堤防

中原川への逆流を防ぐための締切堤防が平成16年3月完成。

締切堤防完成後の様子



締切前の様子



平成10年洪水の様子



ゲートの様子



上流側からの眺め



下流側からの眺め

整備での配慮事項（環境面）

- ・堤防の法面緩傾斜化（1:3）
- ・護岸を覆土し緑化
- ・樋門の門柱の無い形式
- ・樋門への魚道の設置

河川防災ステーション（国土交通省・岡山市）

中原川締切堤防の隣接地に河川防災ステーションを検討中。（平成16年3月30日：承認）

平常時の機能

交流機能

河川を通じた交流拠点の場
水害等河川情報の提供の場
水防演習の場
水防関係者の交流の場

レクリエーション・便益機能

地域住民が自由に利用できる場
自然エネルギーの利用等、地域の規範となるような場
集客性のある魅力ある場

平常時のイメージ



洪水時のイメージ



洪水時の機能

防災機能

岡山市の水防活動における現場指令拠点
水防資材の備蓄基地
消防団員等水防従事者の待機休息の場
周辺住民の緊急避難場所
情報収集・発信基地

都市計画道路 竹田升田線(岡山県)

平成16年度より、百間川橋梁(仮称)の下部工事を着手予定。

都市計画図



百間川右岸側からの眺め(計画路線上)

